

ブラインドサッカー世界選手権盛り上げ隊のまとめ

・アンセムプロジェクト

有名な作曲家・本間勇輔氏が、日本代表キャプテンの落合選手からの依頼にてブラインドサッカーのアンセムを制作。

クラウドファンディングで収録費を捻出し、ミュージックビデオ制作。

ブラインドサッカー世界選手権の開会式で、盲目のピアニスト・木下航志氏が披露した。

・折り鶴プロジェクト

「全12ヶ国の選手へ、おもてなしの心を伝えたい。」

選手は目が見えないので触ってわかり、日本らしいもの=折り鶴。

被災地をはじめ、サポーター仲間呼びかけて全国各地で鶴を折ってもらい、

東京に送り返してもらって、有志が集まり糸を通しストラップにした。

選手が日本へ到着した時に空港で手渡した。

・被災地の子ども達を開幕戦に招待

ちょんまげ隊と、芸能事務所のコラボ企画で実施。

・選手ゲーフラの作成

被災地の子ども達に、選手ゲーフラを作ってもらった。

選手は目が見えなくても、子どもたちはゲーフラを作ることで、

選手を応援するキモチになる。



・毎試合感謝の横断幕を掲げる

東日本大震災で、日本は海外からたくさんの支援をいただいた。

そのお礼の横断幕を掲げた。



・決勝戦後の表彰式で、全参加国の国旗を掲げる

参加国の国旗と感謝の言葉を、A4 で作成、
コンビニで印刷し、表彰式を観ていたメインスタンド全員に配り
掲げてもらった



・ Facebook に「ブラサカアジア最終予選盛り上げ隊」立ち上げ

「ブラサカ世界選手権盛り上げ隊」のメンバーは、241 人。まずは、250 人超えを目指す

・インフィニティとの頑張りが、新聞に掲載

21 **スポーツ** 13 版 2014年(平成26年)11月26日 水曜日 享月

盛況ブライインドサッカー

視覚障害者らによる5人制サッカーのブライインドサッカー世界選手権(東京・国立代々木競技場)は、ブラジルが2連覇を達成して24日に閉幕した。12チームが参加した中、日本代表は過去最高の6位だった。運営面では、有料にもかかわらず約1千席が完売になった試合があるなど、盛況だった。2020年東京パラリンピックに向け、一つの参考事例となりそうだ。

「ニッポン! ニッポン!」。スタンドからの声援が、鈴入りのボールを追う日本選手を後押しした。1057人の観客と93人の報道陣が訪れた16日、開幕戦でパラグアイを1-0で破ると、日本は1勝2分けで決勝トーナメントに進出。準々決勝で中国に敗れたが、その後、1勝1敗、6位になった。

全試合有料(500〜2500円)にした入場券は、開幕戦と決勝戦で完売した。19日には平日にもかかわらず、日本-フランス戦で970人が入場券を購入し、ほぼ満員となった。大会期間中、延べ約6300人が観戦。約400人がボランティア登録した。健常者スポーツでも国際大会では集客や収益面で苦戦する団体が珍しくない中、日本ブライインドサッカー協会

世界選手権、完売の試合も 2020年へ「期待」

は、7社のスポンサーと入場券収入に支えられており、松崎英吾事務局長は「大幅な赤字は出ない見込み」と話す。観客は閉会式にも多く残り、中国や韓国を含めた全参加国の国旗を掲げた。松崎事務局長は「協会が取り組んできた出前授業や、企業研修の参加者が、友達を連れて見に来たことが大きかった。観客によるおもてなし精神も十分だった」と分析した。

日本障がい者スポーツ協会は「この試みは2020年に向けたいいモデルケースになる」。お金を払って障害者スポーツを見る機運の高まりに期待していた。

(後藤太輔)

キーパー以外はアイマスクをつけてプレーする日本と中国の選手ら